

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム ぶどうの家

日付 平成19年3月30日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

そこらにあるようなごく普通のおうちを、大勢一緒に住んだり、昼間通って過ごせるように改築した「ぶどうの家」。その居間の壁に大きく掲げられている「ぶどうの家、H19年目標、宝塚歌劇団を見る・旅行(温泉、ごちそう)に行きたい」は、このお家のシンボルに思えた。

そのシンボルの下で、日当りの良さも満喫しながら、縫い物に余念の無い さん。「今年は宝塚歌劇を見に行くですね。温泉も良いですね」の私の問いかけに、にかっとなって応えてくれる。この人の笑顔もまた、このおうちのシンボルだ。

「このおうちのどこが良いか?」尋ねられたら本当に弱ってしまう程、素晴らしい所は多いのだけれど、「とびきり一番」は、「一対一のお付き合いをし、その人の思いを叶える」事だろう。3人の利用者に対して、小規模多機能型居宅介護の方も兼ねてだが、職員の寄り添い方が厚い状況もあり、職員の利用者に対する思いの温度が高過ぎて、火傷しないか心配な位だ。定員5人の中で入院中が1人と云うが「定められた期限は一応あるが、何らかの目処がつくまでそのまま待つ」と管理者は言う。訪問時の私達の方が余計な心配をしている。しかし、利用者の立場から言えば、こんなに有難い事はない。通いで馴染んでいる間にお泊りもしてみる。その後グループホームに入居。体調が良くなればまた在宅に帰り、通いへ。こんな臨機応変に、利用者の立場が最優先される「ぶどうの家」は本当に困っている本人・家族にとっては「救いの神」となるだろう。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
記録は後のケアに有効なものを厳選し、省力化する工夫を試みて下さい。
地域の人達の交流は無理のないよう、出来る事から少しずつ広げるようにして下さい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「地域のお年寄りが、障害のある方も無い方も、和気藹々とのんびり楽しい時を過ごせるよう、お手伝いしたい」と願い、この「ぶどうの家」を立ち上げた。今に至るまでにも、何度も紆余曲折を経験して来たが、何とか乗り切ったグループホームも1年半になると言う。小規模多機能の拠点をはるか以前より民間が築き上げ、苦しい経験の中、初心を貫いて現在に繋いでいるが、後追いついている行政が、こういった所にしっかり耳を傾け、真の支援をしていただきたいと願うばかりだ。 こんな思いで続いている家だから、日常の暮らしはそこいらにある、ごく普通の家庭そのもの。背中がちょっと痛くて、と言う職員の背を優しくこすってあげているのは利用者。「ありがとう」の御礼に「こんなことあ、たやすいことじゃ」の答え。家族の触れ合いだ。こんな、ごくありふれた日常の継続を目指しているように思えた。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 高齢者住宅のバリアフリーが言われたして久しい。しかし、最近必ずしもそうとは言えないという話も聞くようになった。この家は普通の民家なので当然他の施設より段差もあり柱や物も多い。が、こういった一見マイナスに思える点を見事にプラスに転じている。利用者は、あちこちに摺りながら、段差にも慎重に足を運んでいる。もちろん、好みもあるだろうから、広くて洋風のホームに住みたいという人も居ると思うが、私ならこういった、自分の家に近いような住まいで、ぼちぼち・ごそごそしながら暮らしたいなあ、と思う。		

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 内容がしっかりと詰まったケアプランや生活記録のファイルそのものも、一人ひとりの今の思いや生きてきた姿が尊重されたものになっているが、その間からひらひらと出てきた一枚の「 さんの人間マップ」には驚いた。「若い男性が好き」とか「動きたくないけど、旅行には行きたい」等、 さんの人となりや思い、人生歴等が紙面一杯に散りばめられていて、私達にも、そして新人職員にも、さらにこの人が何も言えなくなった時にも役立つ、一目で理解しやすいマップになっている。このマップをじっと見ていると、職員が「この人とどれ位深く関わり、その位大切に思い、その位かけがいのない人となっているか」伝わってくる。その人その人の過去の歩みや今の思い・今の力を職員全員で共有し、日々の暮らしに役立てている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 月1回のミーティングの記録の中に「夜は大変ですか?」と夜勤者の思いや苦労、意見や提案を聞いている内容を見た。こういった発想の意見交換や自由な発言が、このような形で記録に残され、職員が読み返したり、新人職員も共有出来る工夫があるなら、問題発生を防ぐ手だてになるだろう。「こんな時にはどうしたら良いだろう?」とか「~の方法を教えてください」に対する意見交換が「連絡ノート」でも、もっと増えてくれば、日常的なケアカンファレンスが膨らんでいくのではないだろうか。 又、利用者同士のトラブルで、表面的には一応収まったが、本人にとってそれで良かったのだろうか、とか、みんなの所から離れて居室で対応するのは精神的拘束にならないだろうか等、細やかにその人の心の内側を思いやる職員の心に、このおうちの神髄のようなものを見た。		